

令和7年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議 会議議事録要旨

日 時 令和7年9月29日（月）午前10時～
場 所 蒲郡市役所 本館3階 305会議室

1 開会

2 議題

(1) 協働のまちづくり推進事業について（別紙1）

事務局より、まちづくり助成金事業、協働モデル事業、指針推進事業について説明

・まちづくり助成金事業について、イベントをやるだけではなく、事業目的が達成できたかが大事。実施することが主たる目的ではないので、そこは忘れずおさえておかないといけない。例えば、チャラボコ太鼓の事業では、チャラボコ太鼓を通じて多くの人の輪をつくることが目的となっているので、どれだけ人の輪がつくれたのか分かるものを記録しておくことが求められる。事業を実施している早い段階で記録等のアドバイスをし、報告してもらう必要がある。蒲郡 rope MUSUBI プロジェクト、龍神の事業も同様。

・若者の居場所づくり事業について、報告動画を見ると事業に関心を持っている中高生が出したアイデアや、何を行っているか分かるが、資料では何をやったかが分からないので、見せ方を工夫してほしい。

・アンケートで「居場所がほしいか？」と聞くことはあまり意味がないのではないか。現に居場所があるのか、ないのかなど、分からないことが多い。

・居場所がほしいと答えた中にも、誰かが作ってくれるならほしいという人もおり、自分で作りたい、やりたいという人がどれほどいるかが大事ではないか。

・市で1つくらい作ろうか、という流れになるか分からないが、今回のワークショップに参加した6人にとっては居場所となっても、自分の居場所ではないと感じる人も多いのではないか。子どもたちで作っていきながら、深堀りしていくと面白くなると思う。

・動画にあった素敵なお場所が例えれば学区に1つずつなどあればよいが、市に1つでは難しいかと思う。

・どこかでモデル的にできて、広がっていくとよい。

・児童館は本来18歳までは利用ができるが、近年小さなお子さんとその親御さんが集まるような場になってきている。広さなどハード的な問題もあると感じる。

・活用度は低いかもしれないが、中高生を対象に、公民館が受け入れの場を考える動きもある。

・大人が公民館を開放しますと言っても中高生には響かない。行政がやろうと思うと、ルール等厳しいものになるイメージがある。今ある空いた空間をうまく活用して、部課など垣根を越えて考えられるとよい。

- ・中高生の居場所づくりって中高生が言い出したことなのかと疑問に思う。中高生たちは、Wi-Fi があって、飲んだり食べたり、おしゃべりができたりする場所を自分で見つけてるのではと思う。
- ・大人が子どもの居場所になるといいよねと思って作ったものは、子どもの居場所にはならない。
- ・中学生と高校生では楽しい場所が変わり、高校生になると、地域の居場所が減り、昔の友達と会える駅のホームが1番楽しいようだ。駅にカフェやくつろげるところがあれば、そこも居場所となり得ると感じている。
- ・長野にある立派な居場所施設を視察し、衝撃を受けたことがある。中高生が多くいるが、全員会話をしておらず、パソコンなどに向かっていた。居場所を作ればよいのではなく、まちづくりにつながる仕掛けづくりも必要だと感じた。
- ・アイデアを子どもたちが出しているなら、後期の中で試しに作ってみたらいい。やってみて初めて色んなことが分かると思う。
- ・コミュニティカフェについて、団体が入れ替わって使用することができないことから、継続が難しいという認識でよいか。
- ・新たな団体等がカフェを行うにあたり、施設の改修が必要になることから、施設管理者の福祉課と協議をしたところ、実績がない中での投資は難しく、まずはカフェではなく、フリースペースとしての活用を検討してほしいと要望があった。一方で、コミュニティカフェに興味を持つ団体は、配膳等のカフェ運営による効果を期待していたことから、協議が行き詰ってしまった。

(2) がまごおり市民まちづくりセンター運営業務について

事務局より、がまごおり市民まちづくりセンター運営業務について説明

- ・今までこの会議の中でセンター運営の報告の場を設けていなかった。報告する時間をいただき、センターの今後の発展等に向けたご意見をいただきたい。
- ・ハッカソンでは、子どもたちから深海魚を題材にという要望があったので関わらせてもらった。
- ・よく利用する。話をする中で視点が変わったり、1人で考えていることが形になったりする。みなさんに知ってもらいたいなと思う。
- ・親子で平和を学ぼうの件についても、自分が感動した体験を人にも伝えたいという思いがきっかけとなり、センターのコーディネートにより形になった。
- ・センターが、気軽に行けて、ちょっとしたアイデアを話してみようと思える場所かどうかが大事。
- ・ボランティアとして動いている方が、もっと活動を大きくしていきたいという思いを持ってるので、まちセンを紹介した。センターは繋ぐ役割が大きいと思っている。知っているので紹介できるが、そういう施設があり、コーディネート機能を持っているということを知らない人が多いと思う。知らせることが大事なのではと思う。
- ・市内の知名度はどのくらいあるのか。
- ・数パーセントではないかと思う。各団体のリーダーが相談にくることが多い。

楽しい雰囲気の場所をつくるないといけないと思っている。このテーマなら〇〇さんが興味を持っているなど、人と繋げることが多いが、JC や YEG との交流もあり、企業の紹介をさせてもらうこともある。

・金子さんとの付き合いは長いが、まちセンに頻繁に行くようになったのは最近。集会施設の改修の際にも、バリアフリーに視点でアドバイスいただき非常に助かった。

・「がまっち」で活動の PR をしてもらったこともあり、ありがたい施設だと感じている。広めたいなと思う。

・まちづくり助成金の相談などで利用させてもらっている。

・分かって、知って、行ってみたらいいところなので、気になることや思いを持っている人に対して、もっと気楽に行ける場所にできるといいのではと思う。

・JICA 協力隊経験者について、海外に行った人が、国際協力の仕事をするのは狭き門なので、地域やまちで活躍の場があるとよい。様々な分野で縦割を打ち破り横で繋がることが求められる。

・まちづくりセンターは、同じ思いを持った人を繋げる仕掛けづくりを行う場として、NPO サポートセンターからスタートした。PR 不足なのは課題。みんなが利用しやすい環境づくりが必要で、周知をし、利用者を拡大していきたい。

・駅等の人が集まりやすい場所、駅前に作る予定のみらいキャンバス等に、ソフト的に機能を持たせることは考えていかなければいけない。

・公民館が交流の場になれるならとてもよいと思う。

・海外協力隊には料理人という仕事もある。色々な人が自分の力を活かす場はあると思う。

(3) まちづくり賞の推薦について（別紙3）

事務局より、まちづくり賞の推薦について説明

・国県、もしくは他の表彰を受けた団体等は把握できるのか？わかる範囲で教えてほしい。

・現状では、まちセンに登録している団体の受賞歴は把握できていない。推薦があった段階で受賞歴を確認させてもらっている。

・人形劇は、市民憲章の表彰や中部中学校からの表彰も受けている。どこかを見ると受賞歴が分かるようになるとよいと思う。

・表彰を受けている団体がホームページ等で見えることで、充実している分野や足りていない分野、例えば多文化共生などはそうかと思うが、そういう傾向も確認できる。足りていない分野からモデル事業への展開もあるかと思う。

・時間の許す範囲で団体の把握と受賞歴の把握をしてもらえるとよい。

3 その他

<今年度の会議予定について>

・第3回 令和7年12月8日（月）午前10時～ 304会議室

・第4回 令和8年3月9日（月）午前10時～ 304会議室